

国立国語研究所学術情報リポジトリ

国語研の窓 第21号 (2004年10月1日発行)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001940

国語研の窓

21号

平成16年10月1日 第21号 発行 独立行政法人国立国語研究所
Independent Administrative Institution: The National Institute for Japanese Language

編集 国立国語研究所普及広報委員会
「国語研の窓」部会

〒115-8620 東京都北区西が丘 3-9-14

電話 03-3900-3111 FAX 03-3906-3530

URL <http://www.kokken.go.jp/>



国立国語研究所の全景〔北区西が丘の現庁舎〕

本館（5階建て、左）と研究棟（3階建て、右）は2階の渡り廊下でつながる。本館の左に旧図書館、手前に見えるのは倉庫（旧車庫）。

もくじ

暮らしに生きることば	1
研究室から：e-Japan 事業	2
第3回「外来語」言い換え提案	4
第20回「ことば」フォーラム報告	5
ことばQ & A	6
お知らせ：公開研究発表会	6
表紙のことば	7
新刊	7
お知らせ：「ことば」フォーラム	8

暮らしに 生きる ことば

東京の言葉

東京には、日本各地からの移住者が生活しています。そこで使用される言葉に着目すると、日本各地の方言の特徴が確認できます。

まず、東京の言葉には、関西方言と共通した形式が幾つか用いられていることがわかります。例えば、「マス」を用いた否定表現は、「見マシナイ」「行キマシナイ」ではなく、「見マセン」「行キマセン」となります。この「ン」は、関西方言に見られるもの（行かン=行かない）です。

このほかに、「白い」や「嬉しい」に「ゴザイマス」がついた場合、「白クゴザイマス」「嬉シクゴザイマス」ではなく、「白ウゴザイマス」「嬉シュウゴザイマス」となります。このような言い方も、関西方言の特徴（白ウない=白くない）です。

このように現在使用されている東京の言葉には、関西方言の特徴が認められます。これは、東京の言葉が形成される中で、関西方言の影響が大きかったことを示しています。

次に、東京の言葉には、今日においても、日本各地の方言との接触が起こっています。その中でも、関東周辺部の方言の特徴が、若者を中心に用いられる傾向にあります。例えば、「いいジャナイカ」「雨ジャナイカ」を、「いいジャン」「雨ジャン」と言うことがあります。この「ジャン」は、静岡県から横浜、東京へ伝わったものと言われています。

また、最近では「見ヨウ」「起きヨウ」を「見るベー」「起きるベー」とするように、「ベー」が使われはじめています。この形式は、東北・関東方言の特徴として知られていますが、東京で近年多用される「ベー」は、北関東から入ったもののようです。

これらの例から、東京の言葉には、現在においても、日本各地の方言の特徴が取り込まれていることがわかります。その上、この傾向が若者に見られるのは注目すべきことです。

東京の言葉は、これまでと同様に、今後も他方言と接触しながら姿を変えていくと考えられます。その在り方を注意深く見守っていく必要があるように思われます。

（朝日 祥之）

e-Japan 事業 「IT を活用した日本語学習環境の整備と人材育成」

e-Japan とは？

平成6年8月2日、「高度情報通信社会推進本部」が内閣に設置されました。それから6年後の平成12年11月27日に「IT 基本戦略」が策定され、11月29日に、「高度情報通信ネットワーク社会形成基本法（略称 IT 基本法）」が施行されました。これを受けて、平成13年1月6日、内閣に「高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部」が設置され、1月22日に「e-Japan 戦略」が、3月29日に「e-Japan 基本計画」が策定されました。

そして、世界最先端の IT 環境を日本社会に提供し、さらには世界への積極的な貢献を行っていくために必要な制度改革や施策を当面の5年間に緊急かつ集中的に実行していくことを目標に、次の重点政策5分野で様々な事業が進められています。

- ① 世界最高水準の高度情報通信ネットワークの形成
- ② 教育及び学習の振興並びに人材の育成
- ③ 電子商取引等の促進
- ④ 行政の情報化及び公共分野における情報通信技術の活用 の推進
- ⑤ 高度情報通信ネットワークの安全性及び信頼性の確保

※詳細は、<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/> を御覧ください。

国立国語研究所の e-Japan 事業とは？

国立国語研究所は、平成12年度よりインターネットで日本語教育情報や学習用素材を世界の日本語教育関係者が共有できる「日本語教育ネットワーク」(<http://www.kokken.go.jp/nihongo>) を運用しています。このネットワークの円滑な運用のためには、世界中のコンピュータでの日本語入力と印字の問題、相互利用できる電子化素材の作成の問題、相互利用に際する権利と責任の問題、素材の活用方法の問題など、解決を要する問題が多々あります。

そこで、前述の②教育及び学習の振興並びに人材の育成の分野で、高度情報通信ネットワーク社会の形成に関する e-Japan 事業予算を獲得し、平成14年度から17年度までの4年間、国内外の様々な日本語教育機関、団体や関係者の協力を得て、次の四つ

課題を実施しています。

- ① コンピュータの日本語環境の整備
- ② 日本語・日本文化素材の開発・発信
- ③ IT を活用した日本語学習効果の研究
- ④ IT を活用した日本語指導能力の向上研修

平成14年度より、独自あるいは共同で開発した電子化素材やソフトを国内外の日本語教育現場に提供したり、ソフトや機器の教育利用方法についての研究を行ったりしています。

① コンピュータの日本語環境の整備とは？

国外の日本語教育関係者がインターネット上で日本語による情報の収集と発信を行うときの障壁の解消を図るものです。例えば、海外の日本語教育現場が抱える次のような問題の解消を目指します。

- ・電子メール交流での自国語と日本語の同時使用
 - ・日本語フォントのないプリンタでの日本語の印字
 - ・日本語入力機能のない海外の PC での日本語によるデータベースの検索・抽出
 - ・チャット交流での自国語と日本語の同時使用
 - ・字幕付動画やカラオケを含めマルチメディア教材を作成するときの自国語と日本語の同時使用
- このために、フォントサーバの運用、WebIMEの開発、フォントやソフトの提供、操作や設定の巡回指導などを行っています。

② 日本語・日本文化素材の開発・発信とは？

素材は、国立国語研究所主体と、国内外の大学、団体、企業との共同という二つの形態で開発されています。

素材は、対照言語研究・比較文化研究・日本語研究といった研究の成果に基づく資料集と、日本語学習支援ツール・日本語教育実践情報・日本語教師支援情報といった情報集の二つで構成されています。これらは、教育利用の範囲で自由に活用できます。既に作成されている幾つかを例示します。

- ・漢字の属性情報集
- ・日本語コミュニケーション場面集
- ・母語別（5言語）の日本語音声訓練データ集
- ・字幕付動画やカラオケなどの作成マニュアル集

- ・世界（8か国）の初等中等学校教科書比較集
- ・学習用 Web サイトや CD 教材評価基準集
- ・日本の生活文化素材集
- ・日韓大学生のための言語文化生活素材集

※下に示した Web サイトから御覧になれます。

③ IT を活用した日本語学習効果の研究とは？

コンピュータやインターネットを日本語学習に活用することで、学習者の学習意欲、言語知識、言語運用力等にどのような変化が見られるか、教師がどのように活用することが学習を促進するかについて、国内外の日本語教育現場の協力を得て、3年間にわたり調べています。

例えば、

- ・発声発語訓練のソフトで日本語音声を練習、指導することが、日本語学習者の発声発語にどのような影響を及ぼすか
- ・海外の日本語学習者にとって、日本とテレビ会議、電子メール、チャットで交流することがどのような学習動機の変化をもたらすか
- ・日本語学習者が日本語でホームページを作る、自分の日本語会話場面を字幕付き動画にする、日本の歌のカラオケを作り歌う、といった学習活動が日本語運用力をどのように伸ばすか
- ・Web サイトで日本語を自己学習することは学習者のどのような力を伸ばすか

といったことを行っています。

④ IT を活用した日本語指導能力の向上研修とは？

特別研修（国内6地域）、基礎研修（東京）、巡回指導（海外12地域）の三つの形で実施しています。対象は、現職日本語教師、学校教員、日本語教育専攻大学院生・大学生などです。

平成15年度は、「マルチメディア教材作成と素材の共有」というテーマで特別研修を、「コンピュータと新日本語教育」というテーマで12月下旬、東京国際フォーラムで基礎研修を開催しました。

※平成16年度については、下に示した Web サイトを御覧ください。

どうなる？

日本とのテレビ会議交流、多言語によるチャット交流、海外のパソコンで日本語教育情報を日本語以外でも検索・抽出、日本語フォントのない海外のプリンタでも日本語で印字、教師や学習者によるマルチメディア教材や教案データベースの作成、といったことが簡単に行えるようになります。

世界中で日本語教育実践情報が共有できるようになり、日本語教師による日本語教育の内容・方法についての国際共同研究が進むことでしょう。そして、世界の日本語教師の職務遂行能力の向上、日本語教育実践や日本語教育研究の質的向上につながっていくと考えています。

（柳澤 好昭）

—— この事業の経過報告 Web サイト ——
<http://www.kokken.go.jp/eJapan/>



ITを活用した日本語学習環境の整備 (e-Japanプログラム対応事業)

このサイトは、概観や進捗状況を示すために、2005年度まで開設しています。

e-Japanプログラム対応事業

[e-Japan 何だ？](#) [Eジャパン協議会](#)

「ITを活用した日本語学習環境の整備」事業

※本事業は、日本語教育部門第二領域の所管です。

[2005年の目標](#) [目的](#) [事業の概観図](#) [2002年度活動組織図](#) [質問と答え](#)

概要説明

国内外の日本語教師・日本語学習者に

[日本語・日本文化情報の発信\(2002年度\)](#)

[2003年度進捗報告](#)

[日本語情報送受信の整備](#)

[J-Web日本語教育情報の発信](#)

※日本語・日本文化情報の発信のコンテンツは、それぞれ完成後順次[日本語教育ネットワーク](#)に移設します。

第3回「外来語」言い換え提案を行いました

●第3回32語の発表

国立国語研究所「外来語」委員会は、公共性の高い媒体で使われている分かりにくい外来語について、分かりやすくするための言葉遣いの工夫を、提案しています。第1回（平成15年4月、62語）、第2回（同11月、47語）と提案を重ねるうちに、提案の趣旨は次第に理解され、徐々に効果が現れてきていると感じています。

本提案では、官庁の行政白書や新聞などに使われ、国民がよく見聞きしながら、分かりにくいと感じることの多い外来語を、対象にしています。第3回では、そうした外来語の中でも特に、国民が社会生活を営む上で、理解しておく必要性の高い概念を表す語を中心に検討しました。言い換え等の分かりやすい言葉遣いの工夫が望まれ、委員会として結論の出た32語について、このほど発表を行いました。その全文は、国立国語研究所ホームページに掲載しています。

●「ハザードマップ」の場合

「ハザードマップ」という外来語は、防災に関する重要情報が記された地図を指す語として、国民生

活に密着した場面で使われ、行政文書や新聞などで、最近よく見かけようになってきた言葉です。ところが、この言葉の意味を理解している人を調査すると、国民全体で20.3%にとどまっており、分かりにくいと感じる人の多い外来語です。

「ハザードマップ」という言葉について、言い換え等の分かりやすい言葉遣いの工夫が求められる理由には、もう一点、指し示す意味に混乱が見られるという点をあげることができます。この言葉は、専門語としての本来の意味は、災害に遭う可能性の高い地域を色分けして示した地図を指し、一般語として広まり始めた当初も、その意味で使われていました。ところが最近では、災害の際の避難場所や避難経路を示した地図を指して用いられることも増えており、指し示す対象があいまいになってきています。

防災という、正確な情報伝達が欠かせない場面では、指示対象のあいまいな言葉が使われることは、重大な誤解を生みかねません。「ハザードマップ」の場合は、前者の意味では「災害予測地図」、後者の意味では「防災地図」というように、意味を誤解なく伝えることのできる言い換え語を使い分けことが、求められるでしょう。（田中 牧郎）

○ ハザードマップ

全 体 60歳以上
★☆☆☆ ★☆☆☆

言い換え語 災害予測地図 防災地図

用 例 五月に公表された磐梯山のハザードマップは、明治の大噴火の規模を想定し、地元の猪苗代、北塩原、磐梯の三町村で土石流や降灰などの被害を予想している。

防 災 地 図
各都道府県に対して、災害時に地域住民が円滑かつ迅速な避難行動が行えるよう、ハザードマップの作成等を要請しています。

意味説明 防災を目的に、災害に遭う地域を予測し表示した地図

手 引 き ○災害に遭う地域を予測した地図を指すのが本来であり、「災害予測地図」と言い換えるのが分かりやすい。

○住民向けに作られたものは、災害の危険のある地域を示すだけでなく、避難場所や避難経路などの防災情報を含んだ地図を指すことも多い。その場合は「防災地図」と言い換えるのが分かりやすい。

その他の言い換え語例 災害危険予測地図

複合語例 火山ハザードマップ＝火山災害の予測地図 火山の防災地図

洪水ハザードマップ＝洪水災害の予測地図 洪水の防災地図

見出し語の星印は国民の理解度。★☆☆☆は25%未満であることを示す。

第20回「ことばビデオ」方言の旅—庄内方言の集い—

第20回「ことば」フォーラムは、5月29日13時半から15時半にかけて、山形県三川町の三川町公民館において開催されました。参加者数は121名でした。

フォーラムの前半では、昨年度、研究所が企画・制作した「ことばビデオ」シリーズ3『方言の旅』を上映しました。

この作品は、今回のフォーラム開催地、山形県庄内地方にある三川町を主な舞台とし、地元の方々に御協力・御出演いただいています。作品は、地元の皆さんが使っている庄内方言をめぐって話が展開し、研究所の研究成果も盛り込まれています。

今回のフォーラムは、ロケなどで大変お世話になった三川町の皆さんに作品を御披露することも一つのねらいとしています。

作品は、全国の人が利用できるように作られていますが、やはり地元は違います。客席からは、笑い声がしばしば聞かれ、親しみを持って作品に接していただけたようでした。

フォーラムの後半は、関係者が登壇し、作品をめぐっての座談会を行いました。

はじめの登壇者は、大西、佐藤亮一氏（東京女子大学）、佐藤武夫氏（三川町）の3名です。

大西は、作品の企画・制作にかかわりました。佐藤亮一氏は、作品に登場するとともに、三川町で10年以上調査を実施してられました。佐藤武夫氏も作品の出演者で、また、地元三川町で毎年開催されてきた「全国方言大会」の最初の企画者です。

まずは、この3名で、庄内方言の変化や位置付けに関して話を進めました。

大西は、研究所の研究成果に基づき、全国的な視野から見た場合の東北方言の学術的意味について話しました。佐藤亮一氏は、地元での調査による豊富なデータを利用して、三川町方言の変化について、話されました。佐藤武夫氏は、生活する中での実感から、エピソードを交えつつ、方言の実態について、語られました。

引き続き、ビデオ作品の監督である富永一氏と、作品に出演した俳優の原田佳奈氏も登壇します。

富永氏は、これまで多くの教育作品に携わってこられました。これだけ方言が使われ、出演者のほとんどが地元の方という作品は初めてで、苦労もあったけれども楽しいロケであったことを話されました。原田氏は、作品中、唯一プロの俳優でした。同時に制作当時は、本当に佐藤亮一氏のゼミの学生だったのです。ドラマのようなドキュメンタリーのような不思議な経験であったことを話されました。

三川町でのフォーラムは、第9回（2002年3月）にも開催しており、今回で2回目です。ビデオ制作のためのロケも含め、たびたび町の皆さんに御協力いただいたことにお礼を申し上げます。その他、山形県教育委員会、鶴岡市教育委員会、NHK山形放送局から後援を頂きました。ここに記して感謝します。

（大西 拓一郎）



ことばQ&A

質問 「せわしない」はどうして「ない」がついても「せわしい」と同じ意味になるのでしょうか。

回答 普通は「ない」がつくと否定の意味を思い浮かべます。例えば、「遠慮なく食べる」「遠慮して食べない」と言うとき、「遠慮なく」や「食べない」は「ない」がついて否定を表しています。細かく言えば、前者は形容詞の「ない」、後者は助動詞の「ない」という違いはありますが、いずれも否定を意味します。

中には、否定を表す「ない」がついているにも関わらず、結果的に否定の意味にならないような言葉もあります。それは「極まりない」です。「危険極まる話だ」「危険極まりない話だ」と言うとき、どちらも非常に危険であることを言っています。「極まりない」は「極まり」を「ない」で否定してできた言葉です。厳密には「極まりがない（＝果てがない）」と否定している方が「極まる（＝果てまでくる）」より程度が上ということになるのかもしれませんが、どちらも度合いが非常に高いと言っている点に変わりはありません。これは特別な否定の例と言えるでしょう。

さて、普通は「ない」がつけばその否定を表すも

のだと考えれば「せわしない」も「せわしい」の否定の意味になりそうなものです。しかしながら「年末は何かとせわしい」「年末は何かとせわしない」と言えば、たしかにどちらも同じく忙しいことを言っています。「せわしない」はなぜ否定の意味にならないのでしょうか。

実は、「ない」には否定を表す「ない」のほかに、強調を表す別語の「ない」があるのです。「せわしない」にはこの別語の「ない」がついているので、否定の意味は全くなく、「せわしい」と同じような意味になっています。「満遍なく」も同じ強調を表す「ない」のつく言葉です。「満遍なく」の方が「満遍に」よりもよく使われますが、例えば「日の光が満遍なく当たるようにする」は「満遍に当たるようにする」とも言え、どちらも同じく日の光がよく行き渡るようにすることを言っています。

逆引き辞典という、言葉を後ろから引くことのできる辞典があります。これを使うと「ない」で終わる言葉を一覧することができます。辞書を引けば、「せわしない」のように強調を表す「ない」のつく語として、ほかに「いたいけない」「切ない」「はしたない」などの言葉も見つけることができます。

（柏野 和佳子）

国立国語研究所公開研究発表会

これからの日本語学習支援を考える―学びを支えるモノ・ヒト・コト―

日時 2004年10月30日（土） 13：00～17：00

会場 国立国語研究所講堂（1号館5階）

内容 国立国語研究所が日本語教育の領域でこれまで行った研究事業を振り返りながら、今後の日本語教育の課題について考える機会を目指します。

その際、議論の素材として、当研究所が現在進めている研究事業から、「リソース」（教育及び学習に用いられる物、人、機会）という新たな観点による日本語学習の実態調査、また、学習や指導のための電子化素材や活用ソフトウェアの開発と提供の事業について具体的に報告し、「リソース」やコンピュータが日本語の学習や教育に及ぼす影響について考えます。

その上で、様々な環境でいろいろな手段によって進められる日本語学習を支援する上で、今後の日本語教育は何を課題とすべきか、その中で国立国語研究所は何を担うべきかについて、海外及び国内の日本語教育関係者ととともに議論し、参加者の皆さんからの御意見を伺います。

プログラム

あいさつ 甲斐 睦朗（国立国語研究所長）

発表1 杉戸 清樹（国立国語研究所）「国立国語研究所における日本語教育に関する調査研究の歴史

―なぜ言語学習リソースを探るのか？―」

発表2 小河原義朗（国立国語研究所）「日本語学習者はどのようなリソースを用いているのか？」

発表3 柳澤 好昭（国立国語研究所）「日本語学習者はどのようにリソースを用いているのか？」

―電子化素材と電子媒体―」

パネルディスカッション「これからの言語学習支援に求められること」 李徳奉氏（韓国同徳女子大学校）他

問い合わせ先 宇佐美 洋 電話：03-5993-7632 電子メール：smudr@kokken.go.jp

表紙のことば

国立国語研究所は、昭和23年12月20日の創立以来、何度か移転・改築を重ねてきましたが、来年ははじめに立川市に移転する予定です。本紙ではこれまで何度かにわたり、かつての棲家を紹介してきました。地図で見ると、東京都内での移転といっても、距離が離れていることがお分かりいただけるでしょう。



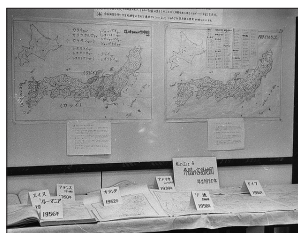
- A. 明治神宮聖徳記念絵画館（一部を借用）〔新宿区霞ヶ丘〕 創立当初～昭和29年9月
- B. 旧山本有三郎（分室として借用）〔現・三鷹市山本有三記念館〕 昭和26年12月～昭和28年4月
- C. 新宿区立四谷第六小学校（一部を分室として借用） 昭和28年5月～昭和29年9月
- D. 一ツ橋庁舎（一橋大学所有の建物を借用）〔旧・千代田区神田一ツ橋。現在は学術総合センターが建っています〕 昭和29年10月～昭和37年3月
- E. 北区西が丘（旧・北区稲付西山町）〔旧陸軍兵器補給廠跡〕 昭和37年4月～平成17年1月（予定）
- F. 新庁舎〔立川市〕 平成17年1月末までに移転完了、2月から業務開始予定。

最終回の今回は、西が丘時代の特に前半、新築・改築の様子を駆け足でたどってみます。



新庁舎ひろうの会 昭和37年10月15日

旧陸軍兵器補給廠跡に移転し、初めて自前の建物で研究を行えるようになって半年。研究組織も創立時の2研究部6研究室から4部10室に。言語地図など、各研究の解説や展示を行いました。



図書館 竣工
昭和40年3月

ようやく、書庫と閲覧室を備えた本格的な図書館を持てました。

- ・昭和43年，巣鴨～志村（現・高島平）間で都営地下鉄が開業。通勤が便利に。
- ・昭和46年，北区西が丘に地名表示変更。
- ・平成13年4月，独立行政法人化。組織改編で管理部及び3研究部門（研究開発・日本語教育・情報資料）に。



漢字テレタイプ
昭和40年11月

24列×25行で並ぶ600のキーを、両足のペダルで区別して、2400字が入力できました。



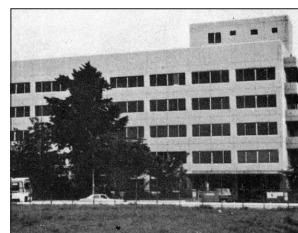
電子計算機室竣工
昭和41年1月

3月，待望の電子計算機（HITAC3010）導入。新聞の語彙調査など、計量研究の時期に。



研究棟（現2号館）竣工
昭和49年3月

4月，日本語教育部が発足し，体系・行動・変化・教育・計量と合わせ6研究部に。



本館（現1号館）竣工
昭和51年9月

10月に発足した日本語教育センター，及び図書館，講堂，総務部などが配置。

新刊

新「ことば」シリーズ17『言葉の「正しさ」とは何か』

2004年3月／国立印刷局／A5判横組み126ページ／本体460円

第23回「ことば」フォーラム「外来語とどう付き合うか」

日 時：2004年11月6日(土) 14:00～16:30

共 催：武庫川女子大学 言語文化研究所

会 場：武庫川女子大学 日下記念マルチメディア館（兵庫県西宮市池開町）

定 員：200名（申込制）

激しい勢いで日本語に入ってくる外来語は、うまく取り込むことができれば、私たちの言語生活を豊かにしてくれます。しかし取り入れ方を間違えると、円滑なコミュニケーションを妨げることにもなります。

国立国語研究所では、「外来語」委員会を設置して、分かりにくい外来語を分かりやすくするための言葉遣いの工夫について、具体的な提案をしています。

このフォーラムでは、「外来語」委員会の活動を紹介するとともに、現代に生きる上で外来語とどのように付き合っていけばよいのか、身近な話題から行政の問題まで幅広く取り上げて考えてみたいと思います。

◆内 容

○外来語の言い換え提案

相澤正夫（国立国語研究所員、「外来語」委員会委員）

○外来語を育てるとは

陣内正敬（関西学院大学教授、「外来語」委員会委員）

○暮らしの中の外来語

佐竹秀雄（武庫川女子大学教授、言語文化研究所長）

◆交通の御案内

阪神電鉄 鳴尾駅（武庫川女子大前）下車徒歩7分

J R甲子園口駅下車 徒歩15分 又は

阪神バス 武庫川学院前 下車徒歩1分

第24回「ことば」フォーラム「国立国語研究所の歩み—西が丘時代を中心に—」

日 時：2004年12月18日(土) 14:00～16:30（予定）

会 場：国立国語研究所 講堂

定 員：180名（申込制）

来春、西が丘の地を去り立川の新庁舎に移転する国立国語研究所の歴史を振り返ります。また研究の成果から主だったものをそれぞれの専門の研究員が紹介します。現在までに歩んできた国立国語研究所のいわば“西が丘時代”と言うべき時期を紹介するとともに、将来に向け今後の展望も考えてみたいと思います。

過去・現在・未来の国立国語研究所の姿をどうぞ御覧ください。

◆内 容（予定）

○国立国語研究所の“西が丘時代”（所長 甲斐睦朗）○画像展示『国立国語研究所の歴史』（森本祥子）

○話し言葉（三井はるみ）○用字と用語（山崎誠）○日本語教育（金田智子）○言語生活（杉戸清樹）

申 込 み 方 法

電話・ファクシミリ・メール・郵便のいずれかで、参加希望者の氏名と連絡先（電話・ファクシミリ・メール）、どの回に参加を希望するか、を明記して下記あてに申し込んでください。

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14 国立国語研究所「ことば」フォーラム係

電話・ファクシミリ（共通）：03-5993-7663 電子メール：forum@kokken.go.jp

詳しくは、国立国語研究所のホームページ（<http://www.kokken.go.jp>）、ポスター、ちらしを御覧ください。

「フォーラム」とは「広場」という意味の外来語ですが、国語研究所では参加者の方々と一緒に言葉について考えたり話し合ったりする機会を「ことばフォーラム」と名づけて、開催しています。